

ポラスグループ  
学生建築コンペ

# 最優秀賞は高齢者向け住宅 すでに実現に向けた作品も

ポラスグループは8月5日、創業45周年記念事業として「第1回ポラス学生・建築デザインコンペディション」の公開審査を開催した。



「いまの学生はレベルが高い」と語る中内晃次郎ポラス代表取締役

その結果、杉山果、杉山由香氏

専門学校等に通う学生を対象に募集し、建築の道志す学生に表現・公表する機会を与え、応援するもの。応募総数158件の中から第一次審査を通過した5作品の公開審査が行われ、選出された学生たちは作品への思いをプレゼンテーション

し、5人の審査員が質疑応答とともに評価を行った。審査員からは、設計図でみた老人ホームの必要性や周辺住民とのメリックトなどの質疑が出たが、

（東京藝術大学大学院）と藤井健太氏（東京電機大学大学院）の「じじばばシェアハウス」が最優秀賞を受賞した。最優秀作品は、高齢者が楽しく住めるシェアハウスをコンセプトに、敷地内に通り抜けできる小道を設けたり、寄合スペースや自治会などができるホールを併設し、周辺の住民や子供たちと積極的交流を図れるような設計となっている。審査員からは、設計図でみた老人ホームの必要性や周辺住民とのメリックトなどの質疑が出たが、

杉山氏はアルバイトでARDオペレーターをやっていた経験から「ハウスメーカーがつくる画一的な建物ではなく、住むことを楽しめる提案をしたかった」と語った。優秀賞は、吉沢英美香氏（芝浦工業大学大学院）と吉柳野衣氏（同）の「屋根裏の知恵」。その他、坂本裕太氏（東京電機大学大学院）の「式年遷住」、古沢彬成氏（日本大学大学院）と中山有紀氏（同）の「小さな住処と大きな広がりの家」、長谷川裕馬氏（法政大学大学院）と小

宮みちる氏（同）の「滲呼吸する家」が人賞した。

審査委員長の青木淳氏（青木淳建築計画事務所）は「審査員の視点によって評価が分かれたが、作品全体のレベルは高かった。実現には難しいものも多いがこれからも頑張るべき」と述べた。閉会の挨拶に立った中語った。

内晃次郎ポラス代表取締役は「想定よりも応募数が多かった。木造産業は裾野が広く、建築出身の少ない業界なので、学生にももっと木について目を向けて欲しい。また、入賞には選ばれなかった作品の中に実現可能なものが多くあり、実現に向けて検討している」と語った。



第一次審査を通過した学生たち、左から一番目と二番目の人が最優秀賞